

2025年10月上旬

一粒書房 新刊のご案内

歴史書／社会科学書／人文書
ご担当者様〒475-0837 愛知県半田市有楽町7-148-1
TEL:0569-21-2130
Mail: book@ichiryusha.com

倭国の激動と任那の興亡

—列島国家への軌跡—

A5判・上製本／712頁／定価：1320円(本体1200円+税)

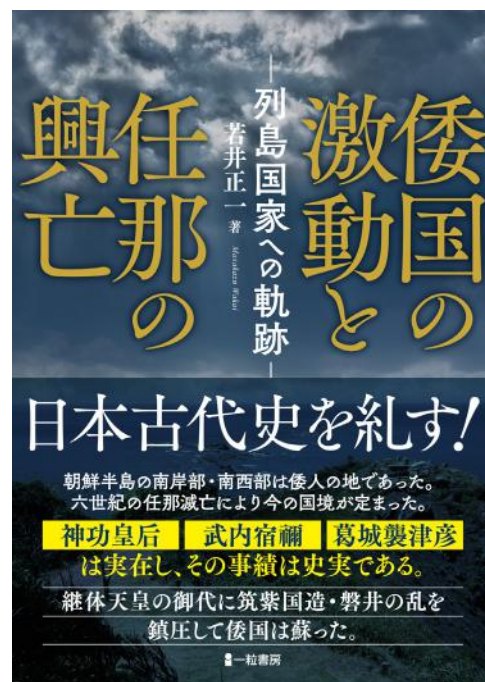
若井正一 [著]

「空白の四世紀」という言葉がある。四世紀の倭国の記録が中国にないので、この時期の我が国の動向が分からないという意味である。これが戦後の支配的な古代史観である。今日の日本史教科書が専ら考古学的知見の解説に終始し、歴史上の人物や出来事に言及しないのはそのためである。ところが、『古事記』『日本書紀』（『記』『紀』）は、我が国草創期について充実した内容の記事を有する。これを読めば、三世紀後半から六世紀にかけて、大和政権が全国を統一し、朝鮮半島で活動したことを具に知ることが出来る。つまり、「空白」とは『記』『紀』を無視した物言いである。その根底にあるのは、『記』『紀』に登場する人物は実在せず、その物語は作り話であるという認識である。要するに、我が国の史書は信用に値しないというのだ。

本書は、津田左右吉に始まるこの戦後の通念に挑むものである。『記』『紀』の記事は、中国の史料、好太王碑文、国内外の考古学知見と整合する。これらを総合することで、古代を覆うベールを取り払い、大和政権による国作りの実像を明らかにする。

六世紀に任那を失い、それを以て対馬が我が国の国境と定まった。それ以降、近代の驕り高ぶった一時期を除けば、それは我が国の国是であり続けている。本書は、国境画定に至るまでの激動と興亡を描くものである。

- 朝鮮半島の南岸部・南西部は倭人の地であった。
- 弥生時代の倭人は文書を用いて中国と交流していた。
- 倭人は朝鮮半島南部で鉄を製造していた。
- 「加耶」ではなく「加羅」が本来の名称である。
- 筑前が大和政権の傘下に入ったのは三六二年頃である。
- 神功皇后は三六三年頃に新羅に攻め入り、三六七年に百済との国交を開いた。
- 「任那日本府」は三六九年に「安羅」（慶尚南道咸安郡）に設置された。
- 武内宿禰は応神朝成立の立役者であったが、後に反乱を企てた。



【著者紹介】若井正一（わかい まさかず）

昭和36年、東京生まれ 名古屋大学医学部卒
医師、医学博士
全国邪馬台国連絡協議会理事

ご注文 申込書	貴店名・帖合	注文数	発行：一粒書房 TEL.0569-21-2130
			若井正一〔著〕
			倭国の激動と任那の興亡 —列島国家への軌跡—
			A5判・上製本／712頁 定価：1320円(本体1200円+税)
			冊
			ISBN978-4-86743-381-2 C0021 ¥1200E

ご注文は JRCへ → FAX.03-3294-2177 ※返品条件付き注文扱い